

編集後記

前回発刊の冬号までの1年間、様々な「力」をテーマに特集を組んで参りましたが、春号からは、時代を読み解くキーワードとなりそうな「動詞」をインタビューのテーマとして取り上げていきます。初回である今回は「笑う」。

本誌では、このように、日本銀行の仕事や歴史、金融経済に関する分かりやすい解説等に加え、現代や将来を考える上でのヒントになりそうな、文化や社会問題に関わる情報も提供していきたいと考えています。本誌が、読者の皆様と日本銀行のよりよいコミュニケーションの場となることを目指し今後とも工夫を重ねて参ります。

「歳時記の故郷」と呼ばれる奥会津。その素晴らしい文化が、過疎化と高齢化により急速に失われつつあります。四季折々の伝統行事を受け継いでいく揺るぎない日常の営み。そこには、「スローライフ」という流行り言葉がもてはやされるずっと以前から、古来日本人が大切にしてきた心豊かな生活がありました。(AU)

このページでもご紹介している「日銀グランプリ」専攻分野を問わず、全国各地の学生の方々から寄せられた論文は、鋭い視点と高い問題意識が生んだ斬新で自由な発想が盛り込まれ、甲乙をつけがたい力作ぞろいでした。来年以降も継続開催していく予定ですので、頼もしい学生の方々への次回作が今から楽しみです。

(NT)

本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、小樽金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送は取り扱っていませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(<http://www.boj.or.jp/type/pub/nichigin.htm>)

本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2006年春号  
編集・発行人 湯本崇雄  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所

印刷 図書印刷株式会社

© 日本銀行情報サービス局 禁無断転載



「日銀グランプリ」キャンパスからの提言2006」の開催  
日本銀行では、このほど、大学生の皆さんを主な対象とした金融経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「日銀グランプリ」キャンパスからの提言2006」を開催しました。初回となる今年度のテーマは、「突破口を探せ! 私たちが考える日本の金融力向上作戦」。全国各地の皆さんから、多彩かつオリジナリティーにあふれた作品が多数寄せられました。三月十日に日本銀行本店で行われた決勝では、書類審査をクリアした五十チームがプレゼンテーションと質疑応答に臨み、日本銀行政策委員会メンバーなどによる厳正

な審査の結果、最優秀賞一チーム、優秀賞二チームが選ばれました。入賞作品は、日本銀行のホームページに掲載しています。日本銀行調査季報でもご紹介する予定です。ぜひご覧ください。また、日銀グランプリは、来年以降も毎年開催する予定です。次回も多数の応募をお待ちしています。

**日本銀行ホームページのリニューアル**

日本銀行は、このほど、ホームページの抜本的なリニューアルを行いました。新しいホームページは、より幅広いユーザーに親しみやすく、使いやすいデザインになっており、ヘビュウザーの方も、初めてサイトに訪れた方も、知りたい情報に容易にアクセスできるようになりました。また、よくある質問や専門用語をQ&A形式で説明した人気コーナー「教えて! にちぎん」は内容を全面的に見直ししました。日本銀行のホームページをぜひこれまで以上に、ご利用ください。

多くの方々に関心が高い3つのテーマについて、すぐに知りたい情報にアクセスできる便利なコーナー。

日本銀行の政策・業務を8つの基本テーマと業務横断的なテーマに分類したメニュー。

日本銀行の基本的な情報、組織、所在地、窓口や各種手続きなどのコーナー。

インタラクティブコンテンツやビデオにより、楽しみながら日本銀行を理解できるコーナー。

広報誌「にちぎん」は、ここからご覧頂けます。



コンテンツの文書タイプ別に分類したメニュー。

「教えて! にちぎん」

<http://www.boj.or.jp/>